

アメリカ合衆国

大統領 バラク・オバマ 殿

新たな核実験に強く抗議し、「核なき世界」への努力を求める

報道によると、貴国はプルトニウムを使った核兵器の性能を調べる新たな核実験を昨年11月と今年3月に行ったことを公表した。この実験は「核兵器の安全性と有効性を維持するというオバマ政権の方針の実践」といわれている。

今回の核実験は、貴殿が2009年4月にプラハで行った演説の「核なき世界に向けた国際社会への働きかけ」や、その後のノーベル平和賞受賞、そして、昨年5月のNPT再検討会議で示された核兵器禁止条約の締結を求める国際世論への重大な背信行為であり、私たちは、今回の核実験に強く抗議するものである。

今こそ、オバマ大統領は自らの演説の基本に立ち戻り、国際社会において、核兵器廃絶への主導的役割を果たすため努力するよう求めるものである。

日本はいま、福島第一原発の重大事故による放射能汚染などによって、国民の生命が脅かされ、経済や社会にも深刻な影響が出ている。この放射能汚染に関連し、核兵器が使用されれば人類の生存そのものが脅かされる危険性を再認識するとともに、こうした深刻な事態を解決する唯一の方法が、核兵器の廃絶であることは指摘するまでもない。

私たちは、核戦争反対、核兵器廃絶を求める被爆国の医師団体として、貴殿並びに貴国が「核なき世界」の目標を高く掲げ、包括的核実験禁止条約の批准、核兵器全面禁止条約の実現をめざすよう強く求めるものである。

2011年5月27日

核戦争に反対する医師の会

代表世話人 児島 徹

代表世話人 中川武夫

代表世話人 山上紘志